

# Amira 5.6 リリースノート

2014年5月 株式会社マックスネット

本書は FEI 社 VSG 部門の原文の一部をマックスネットが訳したものです。  
内容のお問合せは、info@maxnt.co.jp か、03-5318-6626 宛にお願いいたします。

## 目次

1	概要	1
2	新しいライセンス管理機能	1
2.1.1	新機能ライセンスアクティベーション	1
2.2	新しいモジュールと強化されたモジュール	1
2.2.1	新しいモジュール FFT, InverseFFT	1
2.2.2	新しいモジュール FFTFilter	2
2.2.3	強化された SpatialGraphStatistics モジュール	2
3	バグフィックス	2
4	技術情報	3
4.1	サポートプラットフォーム	3
4.2	AmiraDEV 拡張機能(開発版)の必要条件	3
4.3	推奨するハードウェア	3

## 1 概要

このドキュメントは、Avizo5.6 の重要な新機能と強化された機能について記載されたものです。

## 2 新しいライセンス管理機能

### 2.1.1 新機能ライセンスアクティベーション

Avizo5.6 において、License Manager は大きく改良されました。簡単な操作でアップグレードやライセンスの移設が可能になりました。受け取った activation code を License Manager にコピー・アンド・ペーストすれば、オンラインでライセンスのアクティベーションが完了します。ライセンスのアクティベーション、移設、アップグレードの詳細については、Amira License Manager のヘルプを参照してください。

## 2.2 新しいモジュールと強化されたモジュール

### 2.2.1 新しいモジュール FFT, InverseFFT

新しいモジュールであるFFTとInverseFFTは、以前のFourierTransform モジュール(スクリプトでは現在も互換性が

保たれています)を置き換えました。FFTモジュールは、以下の形式の結果生成をサポートしています。

Magnitude, phase, power spectrum, logarithm of magnitude logarithm of power spectrum / complex

結果画像は、センタリングされています(中心が最も低周波)。

逆変換は、InverseFFTでサポートされています。このモジュールは、虚数部分の実数部に比べて重要でない場合、複雑なスカラ場の代わりに単純な実際のスカラ場を生成します。(詳細はTclコマンドの `threshold` を参照してください)。

### 2.2.2 新しいモジュール FFTFilter

Quantification+ Optionにおいて利用可能なオプションです。新しいFFTFilterモジュールは、高速フーリエ変換を基にした2Dまたは3D画像の周波数領域におけるフィルタリングの機能です。このモジュールは周期的なノイズや構造をフィルタリングするための強力なツールです。大きな構造(低周波)のフィルタリングは、シャドウ補正としての利用が可能です。小さな構造(高周波)のフィルタリングはスムージング用途の利用が可能です。Spatialモードは、入力画像に関連する構造の大きさや、ストライプ状の方位や交差を設定するための簡略化されたパラメータを提供します。Frequencyモードは、フーリエ変換像に関するバンドフィルタリングや、ノッチフィルタリング(spots)、そして方位フィルタリングを設定するための拡張されたパラメータを提供します。後者のモードでは、周波数領域を視覚的に操作するためのFFTマグニチュードを出力することが可能です。

### 2.2.3 強化された SpatialGraphStatistics モジュール

このモジュールは、SpatialGraphオブジェクトの各segmentの方位を計算し、spreadsheetに、ThetaとPhiの列を追加します。

## 3 バグフィックス

Amira5.6では以下の問題が改修されました。

3281	<b>CalculusMatlab</b>	Matlab2013b版に対応しました。
4008	<b>DICOM Reader</b>	ボクセルサイズが正しく読み込めない場合があります。
4014	<b>InterpolateLabels</b>	2GB以上のresultに対応しました。
4070	<b>Crash with some networks</b>	多くのオブジェクトと表示モジュールを含む複雑なネットワークがクラッシュする場合があります。
4090	<b>MaterialStatistics</b>	[Mac OS] MaterialStatisticsモジュールをSegmentationEditorから起動してもクラッシュしません。
4103	<b>Create menu</b>	[Mac OS] Createのサブメニューで正しく動作しないものを修正しました。
4106	<b>Clipping Issues</b>	[Mac OS] Nvidia社のグラフィックカード環境でのsurfaceのクリッピングの問題を修正しました。
4107	<b>VolumeEdit</b>	Padding valueの問題を修正しました。
4113	<b>CropEditor</b>	MutliChannelFieldでのCropEditorによるクラッシュを修正しました。
4115	<b>Volren</b>	ラージボリュームで、アーチファクトが出る場合があります。

4119	DICOM Reader	[Mac OS] Stack Break Criteriaダイアログが機能しない問題を修正しました。
------	--------------	--

## 4 技術情報

### 4.1 サポートプラットフォーム

Windows - Windows XP (SP3 以上)/Vista/7/ 8 32bit 版および 64bit 版

MacOS X 10.7/10.8 64bit

Linux - Red Hat Enterprise Linux 5.5 x86\_64 版または同等のもの。他のディストリビューションでも動作しますが、RHEL 以外は保証いたしかねます。

### 4.2 AmiraDEV 拡張機能(開発版)の必要条件

Windows - XP / Vista / 7 32bit 版 では Microsoft Visual Studio 2005 (VC++ 8) SP1

XP / Vista / 7 64bit 版 では Microsoft Visual Studio 2008 (VC++ 9)

MacOS - GCC 4.2.x

Linux - RHEL 5.5 : GCC 4.1.x

### 4.3 推奨するハードウェア

CPU - クロック 2GHz 以上のマルチコア

メインメモリ - 8GB 以上

グラフィックカード - nVidia 製の Quadro シリーズでメモリ 1GB 以上

本書は FEI 社 VSG 部門の原文の一部をマックスネットが訳したものです。(2014年 5 月版)

内容のお問合せは、[info@maxnt.co.jp](mailto:info@maxnt.co.jp) か、03-5318-6626 宛にお願いいたします。